

# 投光器 学習版

国労東海貨物協議会  
2013年4月25日 No.32  
発行責任者 鈴木 和巳

## 厳しさを強調するも説得力なし！ 黒字の会社がなぜ賃金抑制？

前号でもお伝えした田村社長の「賃金抑制施策」ですが、鉄道部門の早期黒字化を行わないと会社の維持・発展が出来なくなる旨を、「社員の皆様へ」というビラで説明しています。社長の発言に一定の理解をするにしても、現在までの状況を作り出した責任には一言も触れられていません。老朽設備を継承した貨物会社の現状は発足当初から予想されていたことであり、国労は以前より貨物会社をはじめ国交省への要請や交渉を数えきれないほど実施し、貨物会社の発展を目指してきています。社長の言う「それに気付いた今だからこそ・・・」は全般的な外れとしか思えません。

また、賃金抑制により会社がどのようにして良くなるのかも見えてきません。賃金抑制をすれば一時的には鉄道部門の赤字幅は少なくなると想定されますが、その先はどうなるのでしょうか？今後ずっと賃金抑制が続くかも知れないこの発言は何なのでしょう？

昨年度の決算も黒字に落ち着くと言われていました。まだ、はっきりとどの程度の黒字か分かりませんが、今回も年度末に予算がついて職場の設備や用品の新調などが実施されています。このこと自体を否定はしませんが、社員の希望とすれば直接懐が潤うことを望んでいますよね！



社員感情として黒字の会社が賃金抑制など、とんでもないと思うのは当然ではないでしょうか。

### 貨物労組の対応はどうなっているの？



北海道などでは貨物労組が「賃金抑制に協力しないと雇用が守れない」など、様々な情報を流しているようです。まだ提案もされる前から、このような情報を流して労働者の意識をアキラメ感にコントロールするような手法が現在まで取られてきました。これこそが労使協調型の労働組合であり労働者の要望を低く抑えるために使われる手法と言えます。

決して安くない組合費を収め、労働条件改善を期待している組合員の気持ちをどう考えているのでしょうか。きっと組合に対して意見を言っても「会社の状況を考えろ」などと言われているのではないのでしょうか？ 第一組合を自負するのであれば安易な妥結はしないで欲しいですね！

そういえば以前、貨物労組の組合員からは「組合費ではなく保険料だ」との声も聞かれましたが、事故処分に関して厳しくなってきた現在では保険料の意味合いも薄れてきましたよ！

**私たち国労は賃金抑制施策に対し反対の姿勢を貫き労働者の労働条件改善に努力します！**

この投光器学習版は国労東海本部のホームページにも掲載されています。

国労東海本部のURLは <http://www.kokurotokai.com> です！